

上野優作監督インタビュー

栃木県真岡市出身。岐阜県は栃木県に似て、環境が良く食べ物美味しく、温泉地も多く、目下大変快適に生活しています。

サッカーは小学校2年生の時に部活で始めた。始めたときの練習は土曜日だけであったが、お弁当を学校に持参してサッカーが出来るということが楽しくて、母が作るその美味しいお弁当を食べたくてサッカーを続けた。当時、真岡市はサッカーが強く小中高で全国大会に出場できる地域であった。

大学は筑波大学に進んだ。同級生にはSC相模原の元会長望月さんやシンガポール代表監督の西ヶ谷さんがいる。アビスパ福岡に加入したきっかけは、大学4年生の時にユニバーシアード福岡大会があり、そこで優勝を果たしたことで関係者の目に留まる事が出来た。1996年大学卒業と同時にJ1アビスパ福岡に加入し、FWとして4年間在籍した。その後は苦しい時期を迎えることとなり2000年にJ1サンフレッチェ広島に移籍したがうまく馴染めず戦力外通告を受けた。'01年はJ2京都パープルサンガ(現:京都サンガF.C.)に移籍し優勝してJ1へ昇格することが出来たが1年J1でプレーした後、二度目の戦力外通告を受けた。そして'03年J2アルビレックス新潟に移籍し、J1昇格を決める最終戦で、決勝点を決めてJ2優勝、J1昇格を果たした。そして'06年再びJ1サンフレッチェ広島に移籍したが良い結果が出ず、'08年に郷里に戻り、JFL栃木SCに加入し、ここでもJ2リーグに昇格を果たすことが出来た。'09年に選手を引退した。J1昇格2回、J2昇格1回を選手生活13年間で経験出来たことは大きな喜びであり、その後指導者として踏み出す決意をした。

'10年栃木SCのコーチを2年、ヘッドコーチを1年担当した。'13-14年には栃木SCアカデミーダイレクター兼ユースの監督を経験して、地元の子どもたちを育てる事や地域社会との連携の重要性を学んだ。'15年から浦和レッズユースのコーチ、'18年から浦和レッズの育成ダイレクター兼ユース監督を経験した後、'19-20年に浦和レッズのヘッドコーチに就任した。'19年の第17回AFCチャンピオンズリーグ戦に出場し、世界の強豪53チームが戦う中で決勝戦まで勝ち上がった。惜しくも準優勝であったが、決勝戦を戦えたことは指導経験の中で大きな財産となった。'21~'22年は日本代表SAMURAI BLUEのコーチに就任し、'22年ワールドカップカタール大会を目指して森保監督を補佐し、選手選考にも関わってきました。海外チームで活躍しているトップ選手が多く、身体的にも精神的にも逞しさを感じた。走力、体感力は抜群であり、時差があってもしっかりとプレーできる体調管理は流石であった。

2023シーズンのFC岐阜は選手達が全員大きく成長して来ていますし、チームの雰囲気も大変良い状態にあります。失点数はJ3リーグで2番目に少なく2024シーズンに向けて攻撃への速攻運動力、突破力から守備力への切り替えなどの課題に確り挑戦して取り組み、J2昇格を狙って戦う決意です。最後に、岐阜のファン・サポーターやパートナー企業の皆様の応援体制の素晴らしさはホーム・アウェイでの応援人数の多さ、スタジアム看板やバナーの多さ、バラエティに富んだイベント、スタジアムグルメの出店の多さ、試合終了後の激励や見送りなどで感じ、とても有難く感謝しています。また、大勢のボランティアの皆様の活躍にもいつも感動しています。2024シーズンは我々全員で、こうした皆様の「オール岐阜体制」のご尽力と一丸になって共に喜び合えるよう戦って参りますので何卒一層の応援を宜しくお願い申し上げます。



2023サンクスセレモニーで挨拶をする上野監督

写真: ©Kaz Photography/FC GIFU